



北部医療センターだより

Hiroshima City North Medical Center Asa Citizens Hospital 2025年冬号



HPはこちら

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院
〒731-0293 広島市安佐北区亀山南1-2-1 Tel 082-815-5211(代表) <https://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp/>

救急患者様の下り搬送について

当院は2022年5月に広島市立北部医療センター安佐市民病院として新規開院し、地域救命救急センターを開設致しました。地域の皆様のいざという時の救急医療を迅速に、そして確実に提供し、皆様が安心して生活できるよう、体制を整えております。

しかしながら当院に救急搬送あるいは救急受診された患者様のなかには、当院が提供すべき高度な手術や治療は必要ないもののすぐにはご自宅で生活が困難な状態である方もおられます。特にご高齢で一人暮らしの方や介護が必要な方は社会的なバックアップ体制が必要で、ご自宅に帰られるための治療や療養、リハビリテーションが必要な場合が多くあります。

そのような方は当院が連携体制を組んでいる地域の医療機関に搬送させていただき、ご自宅に帰れるまでの治療や療養、リハビリテーションを行っていただいております。このような体制を「救急患者連携搬送」、一般に「下り搬送」と称します。

呼び名の通り、高度急性期病院、三次救急医療機関である当院から、急性期病院、一次、二次救急医療機関へ搬送させていただく体制です。

当院は高度急性期医療に特化した病院として新規開院いたしましたが、一般病床数が約100床減りました。この病床数で6,000台を超える救急車を収容し、救急医療を提供しておりますので、どうしても短い入院期間で手術や治療を行う必要があり、当院での手術や治療後にすぐにご自宅に帰ることができない患者様は連携医療機関に転院していただいてご自宅に帰れるまでの治療や介護を継続していただいております。これを「ケア移行」と称します。地域の皆様に安心して生活していただくためには、多くの救急患者様に速やかに救急医療を提供する体制が必須です。特にご高齢の皆様はご自宅に帰るまで長い療養期間を要するが多く、「ケア移行」の体制についてぜひともご理解いただきたいと思います。地域の連携医療機関では当院ではなかなか提供が難しい手厚い治療、介護を提供していただいており、たいへんありがたく、心強く感じております。

ご自宅に退院していただくために介護保険認定や区分変更が必要な患者様は、当院医療支援センターの看護師やソーシャルワーカーが詳しくご説明させていただいており、ケアマネジャーの方々と迅速に連携をとらせていただいております。皆様が不意の症状で救急受診や緊急入院された際は不安でいっぱいだと思います。わからないことがあればぜひお気軽に当院のスタッフにお声がけください。

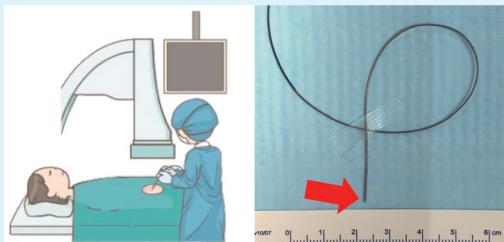
皆様に安心して救急診療を受けていただけるよう、職員一同で対応させていただきます。



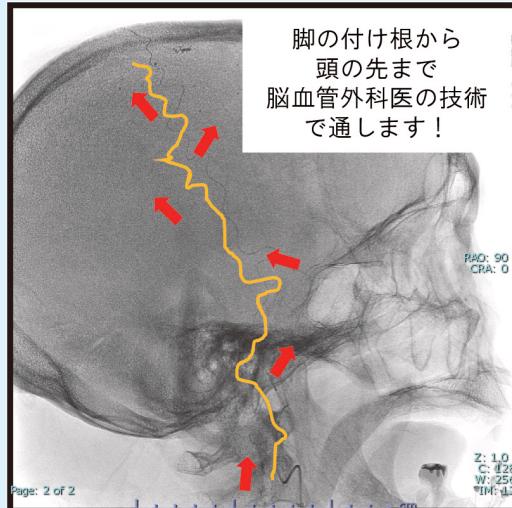
地域医療センター次長
かとうまさや
副院長 加藤 雅也

TOPICKS 『最新治療』 ~脳血管から“脳”を治す時代へ~ 新時代は遠くない!

脳神経外科・脳血管内治療科 主任部長 松重俊憲

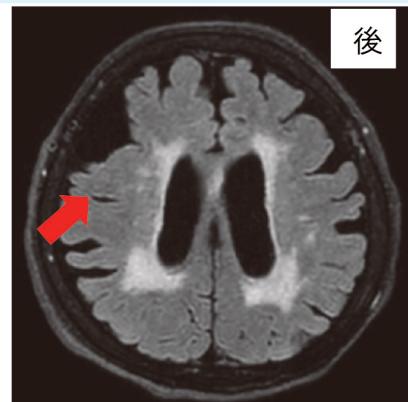
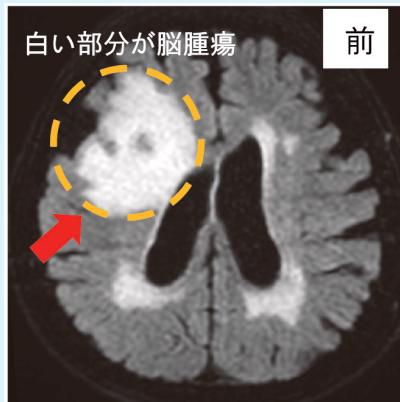


細小径のカテーテル(先端約0.5mm!)
ぐねぐねの血管でも頭の先まで通して治療

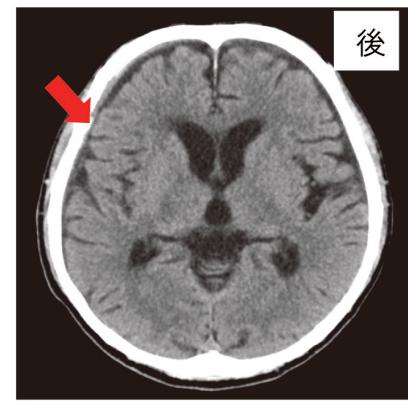
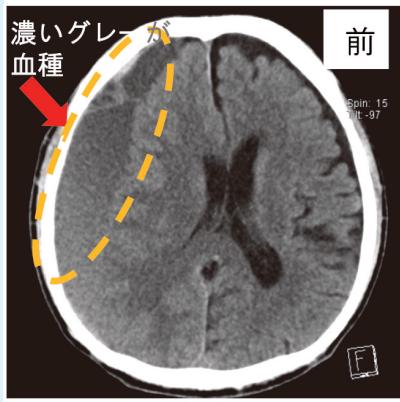


治療器材はどんどん改良・進化し、従来、到達困難だった血管の治療も可能に!

頭蓋内の異常な血管をカテーテルでつぶして、この通り!



一部の脳腫瘍で縮小



外傷性慢性硬膜下血腫で改善

脳血管内
治療とは

破裂するとともに膜下出血の危険がある**脳動脈瘤**や血管が細くなる**狭窄症**、**血管奇形**は血管自体の疾患です。これらの治療のためにカテーテル手術(脳血管内治療)は進化、発展してきました。

一方で、**脳腫瘍**や頭部打撲後に数か月たって生じることがある**慢性硬膜下血腫**という頭蓋内に血腫がたまる疾患などにも実は、異常血管が認められることがわかつてきました。病気と血管はかなり密接に関係しているのですね。

こういった疾患にも、直接外科的に「取り除く」のではなく、血管から「治す」ことが最近注目され、治す、あるいは制御することを目的に治療の幅が広がってきています。

総合診療で 住み慣れた場所で安心して暮らし続けていただくために つなぐ ~高齢者救急と教育の立場から~

木々の葉が落ち、吐く息が白くなる季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。総合診療科では、地域の皆さまが安心して住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、日々の診療と教育に力を注いでいます。

近年、高齢化が進む中で、救急外来を受診される患者さんの多くが高齢の方です。複数の病気を同時に抱え、生活環境や介護の状況もさまざまです。そのため、単に「病気を治す」だけではなく、「その人らしい生活を支える医療」が求められます。



総合診療科では、『全身を診る力』と『生活背景まで含めて考える視点』を大切にしています。そのため、もしもの時の救急に対応し、臓器によらず全身の管理を行いつつ、必要に応じて専門の診療科と協力し、地域の医療機関や介護施設などの次のケアへ安心して進めるよう支援しています。

また、次世代を担う医師の育成も私たちの大切な使命です。総合診療科では、研修医や学生が高齢者医療や地域医療の現場で実践的に学べる教育体制を整えています。救急現場や病棟での入院診療、多職種との協働などの経験を通じて、幅広い視野をもつ医師を育てることが、将来この地域の医療の質を高める礎となります。

これからも総合診療科は、地域の皆さまの安心と安全を願い、救急から住み慣れた地域まで切れ目のない医療を提供できるよう、チーム一丸となって取り組んでまいります。

今年も残り少なくなりましたが、どうぞお身体に気をつけて、健やかな冬をお過ごしください。



総合診療科
主任部長 原田和歌子

初期臨床研修医のご紹介

2004年度から新臨床研修医制度が必修化され21年が経ちました。今年度は新臨床研修医制度22回生となる医科初期臨床研修医10名と歯科初期臨床研修医1名が新たに加わり当院の研修医として皆様の診療にあたっております。

皆やる気に満ち溢れおり、明るく勉強熱心、仕事熱心です。そんな研修医の存在はわれわれ指導医にも良い刺激となっております。研修医の教育には時間と労力を要するものですが、双方にとって、また病院全体の活性化にも必要なプロセスと信じています。さて、そのような教育の一環として今年5月末に病院初のサマーキャンプを行いました。これは研修医の技術や知識向上を狙った1泊2日の強化合宿です。内容は濃密で、重点的な基礎教育ができ、参加者の親睦も深まり、非常に実り多い会となりました。開催にあたり御尽力いただいた救急科、現地に直接指導に駆けつけてくれた上級医、会への支援をしていただいた先生方に改めて御礼申し上げます。病院全体で研修医を支え、共に向上去していくこうするこの雰囲気を誇りに思っております。

地域の皆様方におかれましては引き続きあたたかい見守りをいただきますようお願いいたします。



初期臨床研修プログラム
責任者 青山 大輝



【よりよい医療をみなさまに】

今年から初期研修医になりました!広島大学出身の石橋祐哉と申します。患者さんとの出会いを大切にしながら、元気いっぱい学んでいます。趣味はサウナ巡りとドライブです。至らぬ点も多いですが、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



【何事にも誠実に取り組みます】

4月より北部医療センター安佐市民病院で研修させていただいております、広島大学出身の上坊光希と申します。至らぬ点ばかりですが、地域の医療に貢献できるよう日々精進いたしますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



【チャレンジ精神で頑張ります】

4月から北部医療センター安佐市民病院で研修させていただいております、広島大学出身の金柿宏美と申します。至らない点ばかりですが、いち早く戦力になれるようチャレンジし成長していきたいと思っております。ご指導の程よろしくお願ひいたします。



【誠実で真面目に】

4月より北部医療センター安佐市民病院で研修をさせていただいております、山口大学出身の國本知志と申します。未熟者ではございますが、地域医療に貢献できるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



【感謝の気持ちを忘れずに】

乗原百恵と申します。幼少期から親族の影響で医師を志し、11年前の8.20土砂災害をきっかけに、その想いは更に強くなりました。縁のある安佐地区で初期研修をさせて頂いております。常に周囲への感謝の気持ちを忘れず、誠実に取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願ひいたします。



【地域に貢献できる医師を目指して】

4月から北部医療センター安佐市民病院で研修させていただいています、竹之内春菜と申します。生まれ育った安佐地区の医療に貢献できるよう日々精進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。



【日々精進していきます】

4月より北部医療センター安佐市民病院で研修させていただいている丸山瑞希と申します。まだまだ未熟な点ばかりですが、少しでも早く診療に貢献できるよう日々精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひいたします。



【一生懸命努めます】

今年度より北部医療センター安佐市民病院で研修させていただいております、三原悠香と申します。地元・広島で医師として恩返しできるように、未熟ながらも一生懸命努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



【一歩ずつ成長していきます】

初期臨床研修医1年目の森萌花と申します。日々の診療の中で先生方から多くのことを学ばせていただいています。学んだことを一つひとつ大切にしながら成長していくけるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。



【未来のために】

初期臨床研修医1年目の吉川啓介と申します。広島市出身、島根大学卒です。絶余曲折の人生を歩んでまいりましたが、これからは広島の未来に貢献していきます。よろしくお願ひいたします。



【日々誠実に取り組みます】

歯科研修医の和泉と申します。あまり関わる機会は多くないかもしれません、貴重な機会を通して多くのことを学び、皆さまからさまざまなことを勉強させていただけたらと思います。

北部認知症疾患医療センターだより Vol.3



当院は2023年10月に広島市から広島市北部認知症疾患医療センターの指定を受けましたが、早いもので丸2年がたちました。当院の認知症外来(もの忘れ外来)では認知機能検査、CT検査、MRI検査など様々な検査のほか、アルツハイマー病を診断するアミロイドPET検査も行っています。そして現在、アミロイドPET陽性の患者70名以上がアルツハイマー病の新薬であるレカネマブやドナネマブによる治療を受けておられます。また、県や市の行政と一緒に、認知症の理解を深めるための市民公開講座を開催し、認知症当事者や介護者を支援する取り組みも行っています。認知症についてのよろず相談、お問い合わせは、広島市北部認知症疾患医療センター専用電話にお願いします。詳しくはこちらの二次元コードからアクセスしてください。

専用電話 **082-815-5299**

相談日 **月曜日～金曜日**
(祝日・8月6日・年末年始を除く)

相談時間 **午前9時～12時 午後1時～4時30分**
(午後は面談のためお待たせすることがあります)

広島市北部認知症疾患
医療センター



脳神経内科 主任部長
広島市北部認知症疾患
医療センター
やまと ひろし
センター長 山下 拓史



冬を元気に過ごすための「身体活動」と「温活」

寒さが厳しくなる冬は、外出の機会が減り、身体を動かす時間が少なくなりがちです。しかし、私たちの健康を守るために「身体活動」は欠かせません。身体活動とは、日常生活の中で自然に行う「生活活動」と、目的をもって体を動かす「運動」の両方を指します。



リハビリテーション科
たに ぐち りょう じ
技師長 谷口 亮治



生活活動には、家事や買い物、掃除や洗濯といった日常的な動作が含まれます。例えば「リモコンを取るために立ち上がる」などの小さな動きも立派な活動です。つい「誰か～！」と家族を呼びたくなる場面でも、自分で動くことで血流が促され、筋肉や関節の柔軟性を保つことにつながります。こうした小さな動きの積み重ねは、将来自立した生活を送る力にもなります。

一方、運動はウォーキングや体操、ストレッチなど、目的をもって体を動かす活動です。運動を習慣的に取り入れることで、体力やバランス感覚が養われ、転倒やケガの予防にも効果的です。寒い冬は筋肉がこわばり血行も滞りやすいため、少し身体を動かすだけでも手足の冷えが和らぎ、心肺機能の維持にも役立ちます。さらに、「温活」も冬の健康づくりに有効です。温活とは、体を内側から温めて血流を良くする習慣のことで、軽い体操やストレッチで筋肉を動かすと熱が生まれ、冷え対策になります。外に出づらい日には、室内でできる運動

や湯船にゆっくりつかる、首・手首・足首を温めるなど、無理のない範囲で身体を温める工夫を取り入れましょう。



生活活動と運動に温活を組み合わせることで、冬の寒さに負けない体づくりができます。「ちょっと面倒」を「ちょっと運動」に変えて、心も体も温めながら、元気に冬を乗り切りましょう。

PICK UP!

公式YouTubeチャンネル

最新の技術紹介やWEB講演会などの医療従事者向けの動画だけでなく、施設紹介や検査の流れなど当院を受診される患者様や受診を検討されている患者さんの役に立つような動画を発信しています。



PICK UP!

公式Instagram

皆さんに親しまれる病院を目指し、院内や院内スタッフの活動、季節の風景、イベントの様子など、当院の特徴や魅力などを随時発信しています。あたたかい「フォロー」と「いいね」お待ちしています。

